

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501509
法人名	有限会社 二神
事業所名	グループホーム コロナ
所在地 (電話番号)	津市大里窪田町1706-26 (電話) 059-231-7890
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 6 月 19 日(木)

【情報提供票より】 (H20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人, 非常勤 4人, 常勤換算 18人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (130,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	9 名	女性	8 名	
要介護1	5 名	要介護2	2 名			
要介護3	6 名	要介護4	4 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	82.7 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	二神クリニック 世古口消化器内科 やまもと歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、医師である運営者が、高齢者にとって必要なことは医療面だけでなく、生活全般の安心を保障することであるとの思いで設立したものであり、調査にも家族も含めて終始対応されるなど熱心に携わっている様子が伺える。健康と楽しみを重視し、健康チェック・食事・入浴など質の高いサービスが提供されている。また重度化・終末期への対応に関しても、看取りを含め可能な限り対応していきたいとの姿勢であり、利用者・家族の安心に繋がっている。今後も事業所のネットワークを活かして、地域や同業者等との連携がさらに深まることが期待できる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果については会議等で検討した結果、理念の見直し・手すりの取り付け等がなされ改善されている。運営推進会議等地域との連携についても、関連方面への働きかけはあったものの開催には至っておらず、今後も継続して取り組まれることが望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護職員からも出された意見等を管理者がまとめ、運営者が最終的に仕上げている。仕上がった自己評価にも職員は目を通し、外部評価の結果と合わせて日頃のケアに活かしていきたいと考えている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバー選定や開催方法等に苦慮されており、実施には至っていない。他の事業所の実施状況なども参考にし、是非開催していただきたい。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の運営会議には家族も参加し、意見も出されている。日常的にも意見や苦情等何でも申し出てもらうよう促しているが、これまでに特に問題になるような苦情等は出されていない。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の住民とは挨拶や言葉を交わしたり、野菜や花をもらったりして良好な関係が保たれ、信頼もおかれている。今後は自治会等地域との関わりをさらに広げていかれることを期待したい。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(■■■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの「愛情を持って介護する」という理念に、「地域に密着し」という言葉を添え、さらに地域とのつながりを意識した理念を作り上げている。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員や利用者等にも良く目につく所に掲示されている。開設当初から運営者・職員共に積極的に挨拶などして、近隣の住民との良好な関係を保つよう努めている。	
2. 地域との支えあい				
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人たちとは散歩の折等に挨拶を交わしたり、野菜や花をもらったり、作物を購入したりするなどして日常のお付き合いをしている。また子どもSOSの家の旗を掲げ、青少年健全育成にも協力している。自治会には会費を納めているが積極的な参加には至っていない。	○ 近隣の住民との関係は良好に保たれているが、地域との関わりをさらに広げていただくことで、運営推進会議への地域住民の参加等もスムーズになると思われるため、具体的な活動を検討されることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は十分理解されており、今回の自己評価は介護職員からも出された意見を元に管理者が作成し、運営者が最終的に仕上げ供覧に付している。前回の外部評価にも全員が目を通し、理念の見直し・手すりの取り付け等に取り組む、改善されている。	
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月家族・運営者・従業員が参加する運営会議を行っているが、第三者である地域住民や市の担当者等の参加がなく、制度で求められる運営推進会議として機能するまでには至っていない。	○ 運営推進会議の必要性は十分認識されているものの、市への働きかけ、メンバーの選定などに苦慮されているようである。他の事業所の情報なども参考にして、今年度は是非開催していただくよう期待したい。

		<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営者は日頃から市の方に出向き事業所の状況を報告したり情報を交換したりしている。日常生活自立支援事業を活用している利用者が居た折にも、頻りに市とのやり取りを行っており、今後も必要な都度連携を取っていきたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
		<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的にコロナ通信を発行して暮らしぶりなどを報告する他、毎月の請求の折に直接家族に状況を知らせたりしている。預かり金については残金が少なくなってきた頃を見計らって、領収書を添えて収支と残高を報告している。</p>		
		<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月の運営会議に家族が参加している。日常的にもいつでも意見や苦情を申し出てもらうよう促しているが、これまでに特に問題になるような苦情等は出されていない。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員のユニット間の異動は行っていない。運営者は離職を最小限に抑えるために、負担のかかる勤務の場合は手当てを出すなどの配慮をしている。新任の職員には仕事に馴染むまでの時間が十分取れるよう配慮しており、利用者の大きな戸惑いや混乱はみられない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修等運営者が必要と判断した研修には勤務内に参加できるよう、また資格取得を目指す職員には勤務を調整する等の支援をしているが、段階に応じた研修計画に基づいているわけではない。また、研修の報告は会議で簡単に行なうことはあるが、資料を閲覧したり職員間で話し合ったりする機会は少ない。</p>	○	<p>必要不可欠な研修だけではなく、段階や特性に応じた研修は日頃のケアの振り返りのよい機会となるため、計画的に実施されることが望まれる。さらに、受けてきた研修は全職員に伝達し、検討する機会を設けていただくことをお願いしたい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者の方針からグループホーム連絡協議会には加入していない。運営者間での情報や意見の交換は頻りに行なわれており、情報等は管理者や職員に伝えられているが、職員レベルでの同業者との交流の機会はほとんどない。</p>	○	<p>運営者の医療・介護面でのネットワークは十分張り巡らされ、情報や意見の交換はスムーズに行なわれていると思われる。そのネットワークを活かして職員レベルでの交流に発展させ、より質の高いケアの提供に努めていただくことを期待したい。</p>

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実情は、十分な納得の上で利用が始まるというケースは少なく、不穏になられることが多い。開始当初は常に職員がそばに付き添い、声かけをしたりして気晴らしや安心の時間をつなげていくことで馴染んでもらえるよう努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が一番輝いていた時の話を聞き出すことで理解が深まり、職員は自身の生き方を考えさせられることも少なくない。また利用者の自立心や出来る力を尊重し、出来そうなことはなるべく自分でしてもらおうようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉にしっかり耳を傾けることで思いや希望の把握に努め、食べ物の好みなど出来る限り添うにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートや診療情報、利用者・家族からの聴き取りを元に利用開始当初は様子を観察し、ケース会議で検討して作成している。医療面では運営者が医師のため、きめ細かな検討が可能である。計画について一緒に話し合っていると認識している家族も多い。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員を担当制にして重点的に利用者の様子が把握できるようにしている。気付いたこと等は日誌や個人ファイルに記載し、3ヶ月に一度ケース会議で計画の見直しを行っている。状態に変化があったときはその都度検討し、必要であれば計画の変更を行っている。	

3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科医院や美容院への送迎、コーヒーショップへの外出などの支援をしている。また医療連携体制を整え、医師である運営者が毎朝夕訪問し、健康チェックや訴えの聴き取りなどを行っている他、週に一回看護師がバイタルチェックや簡単な治療を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は運営者である医師をかかりつけ医としているが、あくまで任意であり、他の医師との連携も十分取りながら支援に当たっている。運営者のネットワークを活かして利用者の状況に応じた対応が可能で、利用者・家族だけでなく職員の安心にもつながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族等からは利用開始時に医療対応確認票にて終末期対応についての意向を確認しているが、その後も状態や状況が変化する都度話し合い、確認している。希望があれば出来る限り事業所で対応する方針は運営者・職員間でも共有しており、今までに2名の方を看取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は上から物を言うような態度は慎み、本人の目線に立って自尊心や羞恥心を損なわないよう努めている。通信にも写真や個人情報を掲載せずに利用者の生活を伝えられる方法を模索中である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・食事などの大まかな一日の流れはあるものの、利用者のペースで過ごしてもらっている。特に食事や入浴には十分な時間をとって楽しんでもらえるようにしている。		

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は大きな楽しみであるという認識から、利用者の好みには出来る限り対応している。食材は利用者と職員が考えて希望した物を運営者の妻が質を吟味して購入してくる。利用者には食材の下準備等できることをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、午後に実施しているが、利用者の希望や状態により、いつでも対応できるようになっている。各ユニットに浴室が2ヶ所ずつあり、一人ひとりに十分な時間をとっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	囲碁や習字、おやつ作りなど好きなことが楽しめるような支援をしている。また、洗濯物たたみや掃除等自分で出来ることは男女を問わず積極的にしてもらえるような働きかけや環境づくりに努め、ケース会議でもマンネリ化しないための支援のあり方を話し合っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の機能の低下が進み以前ほど散歩の距離は伸びなくなっているが、マンツーマンの対応をして出来る限り戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階と1階の行き来は危険が伴うため必ず職員が付き添うようにしている。玄関の鍵は日中はかけておらず、誰でも自由に行き来が出来るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。今春には消防署の指導の下、利用者・職員全員が参加してエレベーターを使った避難訓練を実施している。		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は毎食バランスや栄養を考えて立てており、摂取量もチェックしている。また利用者の栄養状態や体重のチェックも定期的に行われており、頭髪が黒くなったり体重が増えたりして、在宅の頃に比べ明らかに栄養状態が改善された利用者もいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりにはたくさんのプランターに季節の花が植えられており、利用者や訪問者を和ませている。また、食堂の大きなガラス戸からは田園風景が見渡せ、四季折々の変化が楽しめるようになっている。居間にはゆったりとしたソファなどが置かれ、横になって寛ぐ利用者の姿も見られた。	
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは造り付けで、介護用の3モーターのベッドは事業所が用意した物であるが、その他の物は自由に持ち込んでもらっている。長年使われていたと思われる衣桁や小さな引き出し、家族の写真などが置かれ、それぞれ利用者の人となりが見える居室になっている。	